

目指すべきまちの姿と基本目標、取組み指標

1. 目指すべきまちの姿

「高山市SDGs未来都市計画」に掲げられている2030年のあるべき姿を参考に、以下のとおりとする。

『自然がもたらす多様な恵みを活かすとともに、
先進的な脱炭素社会を推進するまち 飛騨高山』

森や水、大地など自然がもたらす多様な恩恵への理解が進み、環境の保全が図られるとともに、豊かな自然の恵みを活かした地域・産業の活性化が図られ、国内外から注目される地球環境にやさしい先進的な脱炭素社会に向けた取組みが進んでいる。

2. 対象とする温室効果ガスと算定方法

- ・削減目標の設定や具体的な対策の対象となる温室効果ガスは、温室効果ガスの9割以上を占める二酸化炭素とする。
- ・環境省のHPで公表されている地方公共団体の部門別二酸化炭素排出量現況推計値のデータを引用する。

3. 基本目標

『市内における二酸化炭素排出量実質ゼロの早期達成を目指します
(ゼロカーボンシティの実現)』

<直近年> 二酸化炭素排出量 60.7万 t-CO₂

森林吸収量 57.8万 t-CO₂

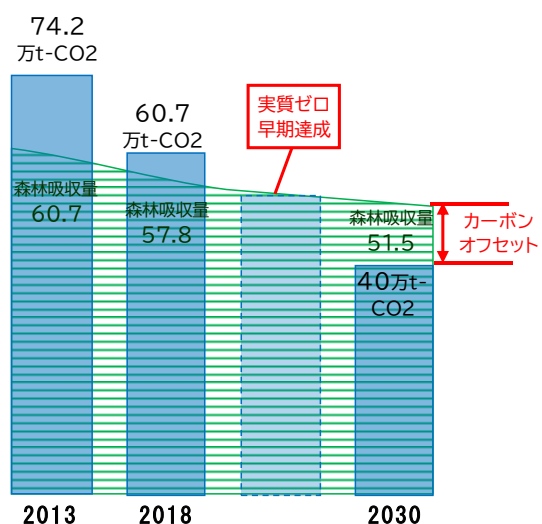
※いずれも2018（平成30）年度推計値

<目 標> 二酸化炭素排出量 実質ゼロ

二酸化炭素排出量削減の取組みや森林の保全・管理の取組みを進めることで2020年代の早期に実質ゼロの達成を目指す。

さらに、更なる省エネルギー対策や再生可能エネルギーの導入、森林の保全や管理を進めることで、二酸化炭素排出量と森林吸収量の差分を拡大し、カーボンオフセットの取組みを進める。

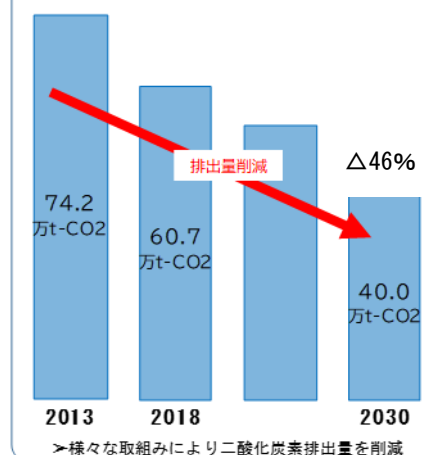
二酸化炭素排出量実質ゼロ
目標達成イメージ



- 森林によるCO₂吸収により排出量を相殺
- 実質ゼロを2030年より早期に達成

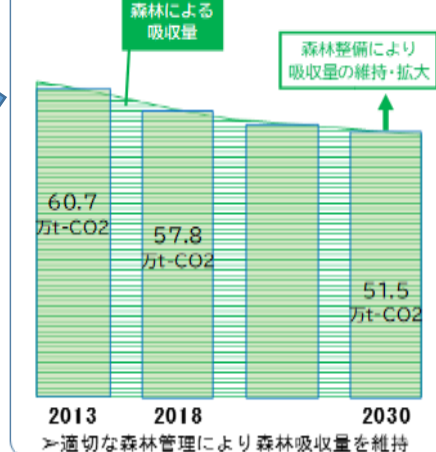
※ 環境省HP、岐阜県統計資料の数値をもとに高山市作成

二酸化炭素排出量の削減



➤様々な取組みにより二酸化炭素排出量を削減

二酸化炭素吸収量の維持



➤適切な森林管理により森林吸収量を維持

4. 取組み指標

(1) 二酸化炭素排出量の削減

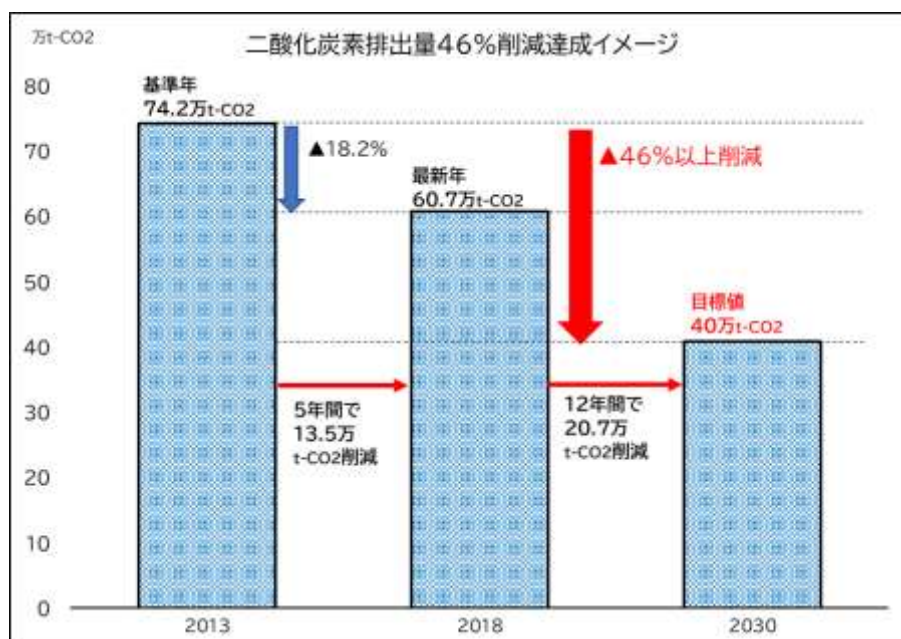
『2030（令和12）年度までに、市域からの二酸化炭素排出量を46%以上削減します』

<基準年>	2013（平成25）年度	74.2万 t-CO ₂
<目 標>	基準年度比46%以上削減	40.0万 t-CO ₂

国の地球温暖化対策計画と整合を図り、基準年を2013(平成25)年度に設定するとともに、市内の二酸化炭素排出量について、基準年度比46%以上削減を目指す。

※ 国は、2020(令和2)年10月に、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「2050年カーボンニュートラルによる脱炭素社会」の実現を目指すことを宣言した。さらに、2021(令和3)年4月には、2030(令和12)年度までに温室効果ガスを2013(平成25)年度から46%削減することを中間目標として目指すことを表明した。

二酸化炭素排出量の削減目標達成イメージ



※ 環境省HP掲載数値をもとに高山市作成

(2) 市内における再生可能エネルギー電力利用実質100%

『再生可能エネルギーの導入促進と徹底した省エネルギーの取組みにより、市内における再生可能エネルギー電力利用実質100%を目指します。』

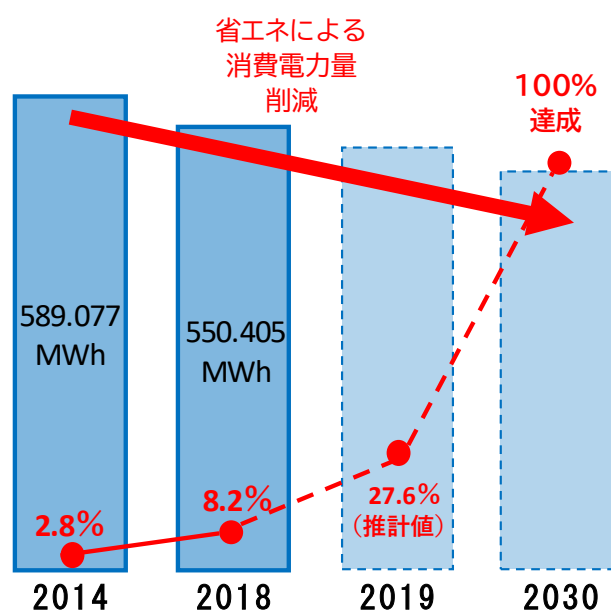
<直近年> 再生可能エネルギー発電量 45,141MWh
市内の電気使用量 550,405MWh
再生可能エネルギー自給率 8.2%

※いずれも2018（平成30）年度推計値

<目 標> 2030（令和12）年度までに実質100%達成

自家消費型を含む再生可能エネルギーの導入を促進するとともに、徹底した省エネルギーの取組みによる消費電力量を削減することで、2030(令和12)年度までに、再生可能エネルギーによる電力利用実質100%の達成を目指す。

再生可能エネルギー自給率実質100%達成イメージ



※ 資源エネルギー庁HP掲載数値をもとに高山市作成